





# ご挨拶

八戸地域防災協会  
会長 大黒裕明

日頃は当協会の活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。防災だよりも早いもので10号をお届けすることになりました。

昨年は当会の皆さんとともに、東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市を視察して参りました。話には聞いていたものの、実際にその現場を見ると改めてずしりと重いものが押し掛かってくる心地がします。被災から一年以上経つというのに、道路こそ通行できるようにはなってはいるものの未だに瓦礫は高く積み上げられ、ニュースで紹介された鉄骨だけになった建物は今でもそのまま、花や千羽鶴の手向けられた臨時の慰霊所の前を通るとやり切れなさについて両手を合わせたくなるのは、同行されたすべての人たちに共通した感想だったと存じます。ほんの少し状況が違えば、私たちの街が同じ目に遭っていたのでしょうか。一

日も早い復旧が行われるようお祈りし、私たちにできることがあるのならばお手伝いさせて頂きたいと思えます。BCP（緊急時事業継続対策）の作成が、海外にまで販路を伸ばした大企業だけでなく地方を支える中堅・中小企業にも必要と近年叫ばれています。これまで、正直なところそこまでやるのかと疑問を抱くこともありましたが、しかし、なにしろ今地球と太陽は安定性を失っているとしたか

思えない現象が続いているのですから万一の時に慌てふためくことが無いよう、心の準備をするためにもある程度の想定のもとで対処法を考えておくことは不可欠でしょう。

鴨長明の随筆に「方丈記」というのがあります。人生の無常観を書き綴ったものとして知られていますが、実はその当時の天災や火災の記録文学でもあるのです。天変地異が続き、平和な街に

ではもはや対応しきれず武力をもった集団に実権が移行していった背景が大変よく理解できます。お時間があれば一読をお勧めします。現代もそれに似た状況が連想され、空恐ろしくなるのはおそらく私だけではないでしょう。

さて、本年は種差も編入されて新しい「三陸復興国立公園」が立ちあげられる年と聞き及びます。このことが、八戸地域に限らず三陸沿岸部全域の早期復興の引き金になることを願って止みません。今後とも、当協会の活動にご理解・ご指導・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



津波に襲われ全焼した石巻市立門脇小学校

## 八戸市から

### 感謝状を受領！

「東日本大震災  
津波浸水高 表示板」  
の寄贈に対して



当協会が、東日本大震災による津波浸水高を記した表示板を八戸市に寄贈したことは、前号で紹介したところで。

大きな役割を果たすものと期待している。」との謝辞がありました。会員の皆様も、沿岸に出かけた際には是非ご覧下さい。

この件について、八戸市では平成24年11月30日（金）、八戸市長室において感謝状の贈呈式を行いました。当協会からは大黒会長が出席し、小林八戸市長から感謝状を受領しました。

（本号表紙は、贈呈式における八戸市長と大黒会長の写真です。）

この表示板は、姉妹協会である大阪府の枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会から寄せられた見舞金を活用して製作したものであり、蕪島の階段、白浜海水浴場、種差漁港など八戸市内10ヶ所に設置されております。

八戸市長からは、「市民や、これから当市を訪れる人に、3.11における津波の状況を一目で伝えることができるので、大変ありがたい。災害に強い街づくりに、大





# 防災フェスタ開催！

と き：平成24年10月11日（木）  
と ころ：八戸市体育館



の一層の充実を図る目的で行われているものです。

午前10時から開始された「第一部 式典」は、ミューズ保育園によるマーチング演奏がオープニングを飾り、当協会の大黒会長が主催者を代表し挨拶を行いました。また、小林眞八戸市長からは激励の言葉をいただき、幼年消防クラブ

平成24年10月11日（木）、雨が心配された天候の中、「防災フェスタ2012」が八戸市体育館において開催されました。  
この防災フェスタは、当協会と八戸広域消防本部、八戸地域幼年消防クラブ連絡協議会の三機関が主催となり、地域の各防災団体が一堂に会し連携を深め、防災体制



の消防図画表彰、誓いのことばと続きました。

式典の最後に登場した「防災戦士ダッシュ119」に、会場内の園児は大喜びで場内は熱気に包まれ、防災戦士が宣伝を行った住宅用火災警報器のPR効果は抜群でした。

式典終了後は、「第二部 アトラクション」です。幼年消防36クラブが歌やお遊戯、楽器や和太鼓、更には消防ポンプ操作など、10のアトラクションに分かれて一生懸命演技を行い「防火・防災」を訴えてくれました。いつもながら、チビツ子たちの熱演に、会場は大賑わいでした。

アトラクションでは、婦人消防21クラブ130名が「家庭あんしん音頭」を輪になって踊り、家庭における防災についてPRしました。今回の参加者数は、当協会員を含め1822名（大人926名、幼年896名）という大規模なものとなりました。

今回は「第一部 式典」と「第二部 アトラクション」の間にお楽しみ抽選会を行い、住宅用火災警報器を景品として当選者に配布しました。当選した方は、「今日は、いろいろ住宅用火災警報器が紹介される場面があった。今後とも住宅用火災警報器については関心を持っていきたい。」と話していました。





## 東日本大震災 被災現地視察研修 に参加して

八戸西高等学校 成田 順 房

私が石巻市被災地現地視察研修に参加した理由は、8月中旬に弘前で開催された地理歴史科公民科部会の講演を聞いたからです。演題は「3・11 それから学校は災害時、学校が直面する現実」であり、講師は宮城県石巻西高等学校の前校長である奥山恒義氏でした。被災の後、体育館は死体の安置所となり、学校として、校長として何ができるのか、また、この震災を教訓としてどのように語り伝えたらよいかという課題に取り組んだ内容でした。

まいました。370〜400年に1回は大地震が起こり震災を繰り返していると言います。何故、過去の教訓が活かされないのかという気持ちになりました。しかし、数百年という時間が風化させてしまったという現実がありました。余りに大きな代償です。今後、どのようにして防災意識を高め尊い命を守っていくかという自然と人間の英知の戦いのように思えます。現地視察ではバスの中から被災地を眺めながら、変わり果てた風景とこんな所まで津波が押し寄せて人々と家屋を呑み込んでいったのかと言う事実。まるで第二次世界大戦時の空襲後のようにも見えました。更地の中にポツリ、ポツリと不自然にたっている鉄骨のみき出した家屋。ガラスのない黒く汚れた三階建ての大きな小学校。そこだけが時間が止まっているように感じました。また、確実

に復興していく製紙会社と行き場のないガレキの山。最後に、説明を下させた石巻市消防署員の方が、「一つだけ良いことが有りました。それは、海が綺麗になったことです。」と話しました。私は被災地現地視察により、自然と人間の共存という課題と人間の英知も自然の力には無力であったという事実を知りました。そして、現在、被災難民についてという新たな問題解決を念頭に、防災意識を発展させていきたいと感じました。



## 防災士養成講座を受講して



電気ナコンナン  
利尚 沢 金

3. 11東日本大震災から1年半が経った頃、会社の人から「防災士養成講座を受講してみないか。」というお話がありました。防災士というものがどんな資格なのかもわかりませんでした。南浜地区の消防団に在籍しているということもあり、何かしらの役に立てばと思いい、受講することにしました。

その他の講習で印象に残っているのが、ハザードマップの作成です。まず6〜8人ぐらいのグループを作り、自分の家の場所を決めて、地震や津波が来た時にどのような被害を受けるのか？さらに避難所の開設と運営については、学校を避難場所に設定し居住スペースや物資の保管場所にはどの場所が最適なのかについて話し合いました。

普段の生活の中では「自助」（自分の命は自分で守る）は考えることはありますが、「共助」（地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ）ということは具体的に考えたことがなかったため、とてもいい経験になったと思います。

今回、防災士養成講座を受講して思ったのは、大規模な災害が発生した時は、警察・消防・市役所などの行政機関だけでは対応しきれない所は自分たちで対応しなければならぬと思えました。

二日間の講習では、大学教授や気象予報士の方などから、地震・津波はもちろんのこと、気象災害や火山噴火の仕組みについてとても興味深いお話を伺いました。中でも、海岸沿いに住んでいる私にとって、津波の仕組みや被害の講習はとても参考になりました。

今現在、全国には約5万4千人の防災士の方がおりますが、これからもっともっと増えていけばいいと思います。





庭 啓 介  
(有)ナンコウ電気

「防災士を受講しないか。」と、会社の専務に勧められ、初めて聞く言葉でどういう事をするのだろうと思いましたが、去年、地域の消防団に入ったことや、これからの自分のためにもなると思い、受講することにしました。

まず、研修日の何日も前に家に教材が届き、その教材を見ながらレポートを作成しました。地震や津波だけではなく、火山の噴火や台風、洪水など、全ての災害の発生するメカニズムなど、いろいろなことが書いてあり、今まで自分が知らない事ばかりだったので、すごく勉強になりました。

研修日は全部で二日間あり、教材で学んだ事を講師の方が詳しく説明してくれました。その他にもグループに分かれ、ハザードマップの作成、学校を避難所にして開設するにあたっての場所決めなどを話し合います。たくさんの方がいればたくさん意見が出て、どれも正しく思えてきて…。避難者にとって一番いい部屋割りを考える

のはものすごく難しいものなんだと思います。

研修受講前の事ですが、救急救命講習も受講し、心臓マッサージやAEDの使用法など実際に行ってみました。最近はどこに行ってもAEDはよく見かけますが、今までなら使い方はもちろん、どういった機器なのかもよくわかってはいませんでした。一度経験するだけで、いざ自分が使用する場面に出くわした時を考えれば、対応にかなり差が出ると感じました。

一昨年の東日本大震災をはじめ、台風による洪水、土砂災害など、自然災害が多くなってきております。このような時期に、防災士養成講座を受講して正しい防災の知識などを学べて、とても感謝しています。今回の研修で身につけた知識を地域の防災力及び職場の防災意識の向上に役立てていきたいと思えます。

そして、防災関係の仕事をされている人にも、「防災士」を知り受講していただき、正しい防災の知識を身に付けてほしいと思いました。



徳 寿 村  
大蔵工業(株)

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、大地震と大津波で多大な犠牲を伴いました。このように、震度五以上の大地震が、国内では一年に一度のペースで発生しているといわれております。さらに加えて、最近では火山、ゲリラ豪雨による水害や台風など、冬期になれば風雪被害。私たちは、いつ発生するかわからない危険の中で生活をしているといっても過言ではありません。これらの災害に対する事前知識を備えることにより、自然災害の防止は難しいことですが、損害を大幅に軽減することは十分可能です。そこで、

自助、共助、公助を元に、家族、地域や企業、団体組織の中で数多くの防災関連の有資格者、または受講者がリーダーとして活躍し、災害に対する「備え」をすることが必要だと思います。それを担う一つが「防災士」であり、どんな職種、職業、会社等でも防災への備えは必須事項と言えるでしょう。

自助、共助、公助を元に、家族、地域や企業、団体組織の中で数多くの防災関連の有資格者、または受講者がリーダーとして活躍し、災害に対する「備え」をすることが必要だと思います。それを担う一つが「防災士」であり、どんな職種、職業、会社等でも防災への備えは必須事項と言えるでしょう。

防災の知識を持っていれば、「万が一の時に役に立つ人である」ということをアピールできます。実際に防災の資格を研修項目として習得させる企業及び団体も多くなっていると言われる昨今です。

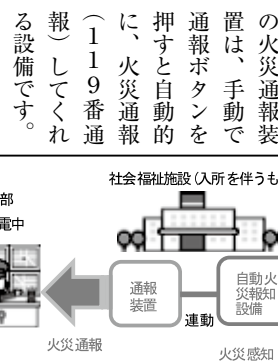
また、非常事態を想定したBCP（事業継続計画）を用意する企業・団体も多くなっているといわれております。更に、インターネットを利用したパソコン学習、通信教育も構築されており、忙しい人でも自分のリズムに合わせて無理なく学習できます。また防災士の資格は、経験、性別、年齢、国籍等は一切不問で、誰でも気軽に受講できる体制ですので、今後多くの方が受講し、防災士が大勢増えていくことを望んでいます。

今後は、防災意識の継続、各ボランティアとの協力に努め、防災士の環境づくりに貢献できればと思います。

最後になりましたが、この度関係各位には大変お世話になりました。このことを感謝申し上げます。

### 八戸消防本部からのお知らせ

#### 消防用設備



の火災通報装置は、手動で通報ボタンを押すと自動的に、火災通報(119番通報)していただく設備です。

近年、社会福祉施設の火災による犠牲者が多く発生していることから、今後は自動火災報知設備と火災通報装置を連動させ、感知器が煙や熱を感じると自動で119番通報する機能を付けられるようにします。

このシステムにより、119番通報する作業が省略でき、職員が少ない夜間などの時間帯、初期対応に有効であると考えています。

当消防本部では当面次のように働きかけていくこととしましたのでお知らせします。

- ① 対象施設は、当面、入所を伴う社会福祉施設とします。
- ② 新築はもちろん、既存の建物にも推奨してまいります。

設備に関する相談や詳細については、消防本部予防課設備指導班まで、お問い合わせください。

Tel 0178-44-2133

# 各部会 活動報告

## 三戸ブロック 視察研修の報告

毎年恒例の当三戸ブロックの視察研修会、今回は「八戸」を中心に視察したので、視察研修の内容を報告する。

8月29日(水)天候晴れ、気温30度の真夏日。参加者は、会員15名、消防職員10名の総勢25名で、9時00分、三戸消防署を出発。

9時45分、八戸ポータルミュージアム「はっち」に到着。会社員時代は防火管理者だったというボランティアアガイドの案内で館内を探訪、八戸市の歴史が展示され、地域振興のための様々なイベントや貸館制度などが紹介され、約1

時間研修した。東日本大震災(以下震災)時、鉄筋コンクリート5階建て免震構造の「はっち」は停電にならず、周辺の明かりは「はっち」だけ。多くの住民が「はっち」に避難し、大型テレビの震災情報が大変役立つとのこと。

11時10分、蕪嶋神社の参拝。蕪嶋は、「ウミネコ」のイメージだが、「かぶしま」という名前から、株の投資家が島を三周し参拝すると、株が上がるパワースポットとして近年有名らしい。参加者に株投資しているものはいないようで、みなさん参拝のみであった。神社階段下、砂に埋もれ傾いた公衆トイレに震災の爪痕を残す…。

12時00分、観光遊覧船「はやぶさ」乗船。定員50名の遊覧船は貸し切り状態。波しぶきを上げ、思ったよりスピードが出る。八戸工業地帯、震災時には、大きな船がとごとく岸壁に乗り上げ、船底を晒す映像が放送された。湾内には、まだまだ瓦礫が残されている。そうだが、見事に復興している。職員が、えびせんを一袋購入し回ってきた。食べるためではない。遊覧船の周りを飛び交うウミネコに与えるためである。震災時は、誰も餌付けの余裕はない。震災を危惧し、同時に日常の平安を感じる約

40分間の船旅であった。

13時00分、昼食は海鮮丼。湊町の和食処で海の幸を堪能。刺身もうまいが、ニジマスのすいとんは絶品である。食後は帰路。

15時00分、三戸消防署に到着し解散。

今回の視察研修で、八戸工業地帯の復興状況と八戸で地域振興にどんなふうに取り組んでいるかを視察することができた。人間の努力は素晴らしい。あきらめず、多くの人と協力し「復興」という目標に向かう姿勢を学ばせていただいた。防災に取り組むものとして、実り多い視察研修であった。



## 五戸ブロック 視察研修の報告

五戸ブロックでは、平成24年9月28日(金)に防災協会20事業所22名と五戸地区婦人消防クラブ連絡協議会10名と合同で、視察研修会を実施しました。

最初に、東北電力株式会社八戸火力発電所を訪問しました。この発電所は、昭和31年に創業し、平成24年までに5機の発電設備を備え、そのうち現在では2機を稼働させ17万4千世帯の電力を供給できるとのことでした。青森県内の約三分の一の世帯を賄うことが可能なことを学びました。また、平成23年12月から運転が開始されたメガソーラー発電設備では、約五百世帯分の電力を補えるとのこととで、現物を見学できると思っておりましたが、あいにくの雨天で見られなかったことは非常に残念でした。

次に、八戸プラザホテルに会場を移し、木村理事からの挨拶後に、八戸東消防署の河原救急隊長講師のもと、東日本大震災での「八戸消防の救援活動の記録」の講演を



聴くことができました。最後に懇親会では、五戸消防署の四戸署長と奥さま防災博士の鳥谷部様から挨拶を頂き、有意義な研修会を終えることができました。

## 平成24年 八戸広域圏内の火災概要

平成24年中における火災の発生状況を見ると、総出火件数は115件で前年に比べ9件の減少となりました。

火災種別では、建物火災66件(23件減)、林野火災4件(1件増)、車両火災13件(3件減)、船舶火災1件(同数)、その他の火災31件(16件増)となっております。死者の6人は前年と比べ4人減、負傷者は23人(13人減)でした。損害額は4億2,832万8千円で、前年に比べ1億4,406万7千円の増となっております。

出火原因別では、第1位が「放火の疑い」、「ストーブ」で7件、第3位が「放火」、「たばこ」、「たき火」となっております。「放火」と「放火の疑い」を合わせた件数は13件となり、前年と比較すると11件の増となっております。

(表1 火災の状況)

△は減

区 分		平成24年	平成23年	増 減
総出火件数		115	124	△9
火 災 種 別	建 物	47	51	△4
	住 宅	35	44	△9
	林 野	4	3	1
	車 両	13	16	△3
	船 舶	1	1	
	航 空 機			
	そ の 他	31	15	16
焼 損 棟 数		103	185	△82
り 災 世 帯		48	92	△44
り 災 人 員		131	239	△108
死 者		6	2	4
負 傷 者		23	36	△13
建物焼損面積 (㎡)		4,926	6,954	△2,028
林野焼損面積 (㎡)		139	407	△268
損 害 額 (千円)		428,328	284,261	144,067

(表2 火災の主な原因)

△は減

順位	原 因	平成24年	平成23年	増 減
1	放火の疑い	7	1	6
	ス ト ー ブ	7	21	△14
3	放 火	6	1	5
	た ば こ	6	12	△6
	た き 火	6	8	△2
	そ の 他	69	63	6
	不 明	14	18	△4
計		115	124	△9



# 趣味をもちろ

## 地域活動 (ボランティア) と先輩達と私

東西オイルターミナル(株)八戸油槽所  
上野 哲弘



他県での単身赴任  
まで続きました。

「ヒント、私の名字の家が多い町内が  
あります」

この様な状況は、  
社命による単身赴  
任となる四十八歳  
まで続きました。

が役目だから、安  
心して引き受けて  
との説得あり。)

に代表して謝る事  
職は当時の各役員から、実務は自分ら  
でしっかりとやる。会長はイザという時  
に代表して謝る事

引き継ぎにて、やっとの一言) 更に、  
三十八歳頃より地元学区のPTA活動  
にも勧誘され、最終的には小学校及び  
中学校のPTA会長を引き受ける事に。  
(やはり先輩より、ちよつとでいいか  
ら手伝つてと勧誘される。また、会長  
職は当時の各役員から、実務は自分ら  
でしっかりとやる。会長はイザという時  
に代表して謝る事

生活四年半から、社命により二年前に  
帰任(この期間は地域活動不可)して、  
一年程経過したある朝、飼犬三匹を  
連れての散歩中、地元の先輩が近付い  
て来まして、世間話? 別れ際に「暇だ  
ろう。町内会の役員をやつて」との勧  
誘、結果、昨年より町内会役員参加と  
なり、現在に至る次第です。

この様に、成人以来、地域活動との  
切れ間が殆ど無い状況です。趣味では  
ありませんが地元でワイワイと非常に  
楽しく過ごさせてもらい、これも、私  
への節目毎の地元先輩諸氏の、声掛け  
と各活動での人選根回しの御蔭と感謝  
しております。尚、私も当然のごとく  
に、後任を決める際には、先輩諸氏の  
教えを守り、後輩達への声掛け及び根  
回しを欠かしたことは有りません。こ  
れは、我が地域の伝統と考えます。

先輩いわく、「後任については三代後  
まで考慮すべし」実に良い言葉です。  
最後に、私の住む地域はどこでしょう。  
最後に、私の名字の家が多い町内が  
あります」

今回、会報「防災だより」の趣味を  
持とう欄の原稿依頼を受け、はてさて  
自分の趣味とはなんだろうと思案いた  
しました。釣りは好きだがこの五年間  
一度も竿をロッドケースから出して  
ないし、読書もしていたが老眼気味で、  
この頃は遠ざかっている。スポーツ系  
は、疲れるから積極的な参加はしない。  
結果、これが趣味ですと人様に胸を  
張って言えるものが無いことに気づき  
ました。…でも、一日一杯何もしない  
でいることが出来るという特技はあり  
ます。残念、趣味では到底ありませんね。  
さあ、そこでいよいよよネタが無く、  
さらに思案いたしました、自分が長く  
携わってきた地域活動も見方を変えれ  
ば趣味ではないかと、物凄くこじ付け  
を思いつき、この欄の原稿へと考える  
次第です。…そうなんです、嫌いだっ  
たらまずやりません。とゆうことは好

きだから出来ることであり、  
好きなことは立派に趣味と  
言えるはずで。

さて、話を戻しまして自  
分の地域活動状況と経緯。  
変遷ですが、一番最初は消  
防団でありました。高校を  
卒業し、二十歳を迎えたあ  
る夕方に帰宅すると、地域  
の先輩が三名ほどおり入団  
勧誘。三夜ほど続きまして、最初は固  
辞しましたが、結果入団となり四十八  
歳まで継続。(先輩の選定理由は、父  
親も元消防団であり、お前でも可)

時期をラップして三十六歳から四十二  
歳頃までは、地域子供会の世話役とな  
り最終的には二学区を統合した代表  
となりまして。(世話役も先輩からの  
引き継ぎにて、やっとの一言) 更に、  
三十八歳頃より地元学区のPTA活動  
にも勧誘され、最終的には小学校及び  
中学校のPTA会長を引き受ける事に。  
(やはり先輩より、ちよつとでいいか  
ら手伝つてと勧誘される。また、会長  
職は当時の各役員から、実務は自分ら  
でしっかりとやる。会長はイザという時  
に代表して謝る事



## 会員事業所紹介コーナー⑧



### 株式会社 サトー防災

所在地：〒039-1164 八戸市下長八丁目 1-25  
TEL：(0178) 28-2356

弊社は消防用設備の設計・施工・メンテナンスを行う会社として設立し、平成24年12月に創業37年を迎えました。

消防用設備は、主に一定規模の社会福祉施設、病院、ホテル、店舗や工場などの事業所が対象になる為、一般ユーザーにはあまり馴染みがありません。

事業所等を建設する際に消防法で設置が義務付けられる、自動火災報知設備・火災通報装置などの警報設備、消火器やスプリンクラー・消火栓などの消火設備、誘導灯・救助袋などの避難設備が、消防用設備であります。

最近では、一般住宅やアパートなど全ての住宅にも住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

このような設備の施工・メンテナンスを通して地域社会の『安全・安心』に少しでも貢献出来るように努めてまいります。

また消防法の改正や日々多様化する施設に対応する為、大手防災メーカーや大手警備保障会社とタイアップしながら日常の業務を行っております。

今後とも、更なる知識・技術力・信頼の向上に努力してまいります。